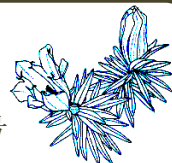


屋久島国立公園だより

2021年9月号



発行：環境省屋久島自然保護官事務所（屋久島世界遺産センター内）
〒891-4311屋久島町安房2739-343 TEL:46-2992 FAX:46-2977



COOLBIZ

クールビズ

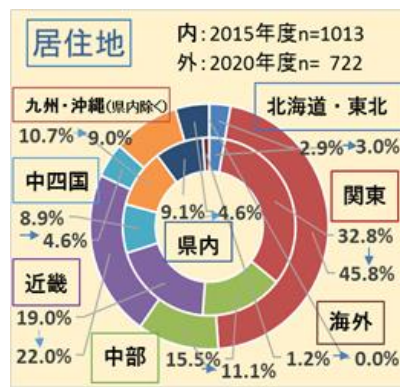
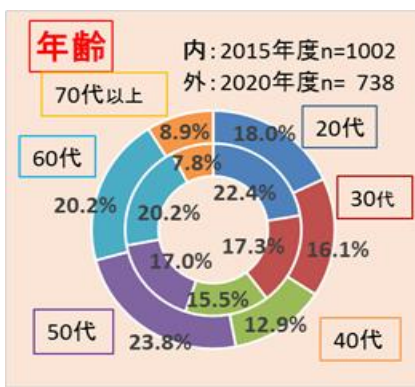
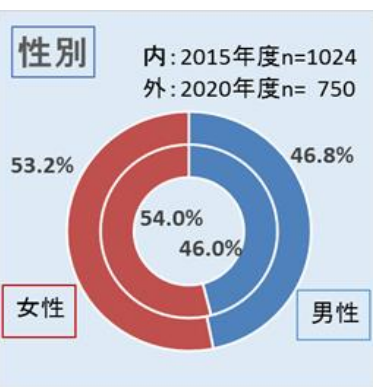


屋久島国立公園
Facebook

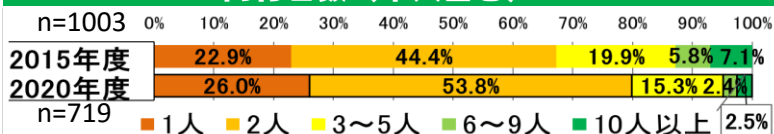
※屋久島世界遺産センターは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館中です。開館の日程はフェイスブックまたはHPでお知らせします。ご迷惑をおかけしますが、ご理解の程よろしくお願い致します。

屋久島を訪れる観光客はどんな客層で、どこに行っているの???

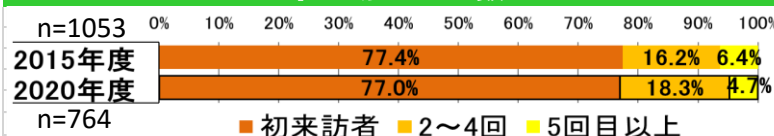
環境省では、世界遺産地域を含む保護地域の利用の状況を知ることがを目的に、利用に関する観光・登山利用の調査を昨年度実施しました。2015年度との比較で、その調査結果の一部をご紹介します。



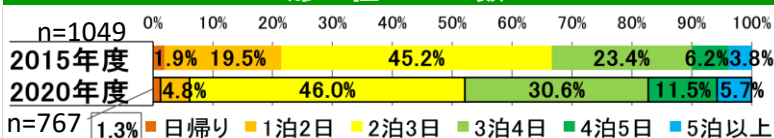
同行者数 (本人含む)



来訪回数



滞在日数



グラフ・表についての考察 (2015比較)

- ◇過年度同様、女性の割合がやや多い。
- ◇40代以下の方が減少。50代が6.8%増加。
- ◇関東・近畿圏からの割合がさらに高く。
- ◇3人以上の旅行が減少。
- ◇初めての来訪者が、過年度同様、8割弱を占める。
- ◇2泊以上の滞在客が大幅に増加。(平均滞在日数が3.39日⇒3.83日へ増加)
- ◇白谷雲水峡が引き続き人気1位で、7割強が訪問。
- ◇西部林道(車)への訪問率の増加が顕著で、順位も9位から5位へ上昇。

☆総合満足度は6.06⇒6.28(7段階評価)へ向上。
☆再び訪れたい意向は6.39。
(7段階評価、2015年度はデータなし)

人気スポットベスト10

順位	地点名	訪問率 (2015比)	2015 順位
1位	白谷雲水峡	71.4% (+7.2%)	①
2位	縄文杉	56.3% (+2.8%)	②
3位	大川の滝	55.2% (+3.3%)	④
4位	千尋滝	52.6% (+0.3%)	③
5位	西部林道(車)	36.9% (+11.4%)	⑨
6位	ヤクスギランド	36.7% (+1.8%)	⑤
7位	永田浜	36.3% (+3.8%)	⑦
8位	紀元杉	35.5% (+1.8%)	⑥
9位	太鼓岩	33.2% (+5.3%)	⑧
10位	尾之間温泉	19.0% (-4.0%)	⑩

※コロナ禍、旅行需要喚起策等の条件下での調査であることにご留意ください。

外来種のこと

屋久島にはどのような動植物が分布しているかを知るのも、私たちの仕事として重要なことです。その中で、外来種がどこにいるのか、という情報も集めています。

前号では屋久島内における特定外来生物に注目しました。それ以外にも様々な外来種が屋久島には生息しています。国立公園内で確認される外来種は比較的少ないのですが、広がらないように注意しなければならない種類もあります。

アメリカハマグルマ

栗生の国立公園内でハマユウなど貴重な海岸植物群落がある場所では当所職員と国立公園パークボランティアが防除活動を続けています。国立公園外では、春田浜でも部分的に防除を実施しています。春田浜も独特の植生が見られる貴重な自然を有しています。

本種は茎1本、それもわずか数cmの断片から驚異の繁殖力で増えるので、草刈り後、空き地、海岸、山林、小川等へ決して捨てないでください。特に日当たりの良い場所では、在来植物の自生地を覆い尽くすおそれがあります。生態系への影響に加えて、屋久島の風景を変えてしまうおそれもあるのです。



オキナワキノボリトカゲ

本来は沖縄諸島、奄美群島に分布し屋久島には生息していませんが、既に島内で繁殖が確認されている「国内外来種」です。鹿児島県指宿市や宮崎県、長崎県、静岡県でも見つっています。屋久島では天敵が少なく、在来のトカゲに比べ大型で、昆虫やクモを好んで食べるため、生態系への影響が懸念されています。

本種は人の活動で分布域が広がってしまいます。捕獲の他、植物や土砂とともに移動させてしまう可能性もあります。大きな鉢植え等の移動や、伐採後の枝葉の処理にも注意が必要です。原産地に似た温暖な気候の屋久島では、人が住んでいる標高帯であればオキナワキノボリトカゲは簡単に繁殖してしまいます。

そのため、飼育・鑑賞目的など安易な考えでの捕獲をすることや、逃がすことは決してしないでください。もし見つけた場合は捕獲せず、行政機関等に連絡をしてください。

生態系や人へ悪影響を及ぼすおそれのある外来種は、

- ①自然分布域から非分布域へ「入れない」
 - ②飼養・栽培している外来種を適切に管理し、「捨てない」
 - ③既に野外にいる外来種を他地域に「広げない」
- ことが大切です。

※2種は鹿児島県の指定外来動植物として指定されており、県条例により野外への放出等が禁止されています。



いきものコラム

オカヤドカリ

屋久島の海辺には多くの生き物たちが生息していますが、中でもオカヤドカリは黒いつぶらな腫がとってもかわいい生き物です。

彼らは、海の中に住んでいるヤドカリたちとは違って昼のあいだは海岸近くの草むらや石、流木の下に潜っていて、夜になるとエサをもとめて海辺に出てきます。特に、夏の間は活発に活動するようです。背中中の貝殻は自分の体よりも大きく、重そうですが、イメージよりも素早い動きで、見つけても目を離すとすぐに見失ってしまいます。



屋久島では珍しくない生き物ですが、文化財保護法に基づいて指定される天然記念物に指定されていて、許可無しに捕まえてはいけません。

つつい連れて帰りたいくらいかわいいオカヤドカリですが、見かけてもそっと観察するだけにしましょう。

参考文献

・「屋久島の海辺生物ガイド」平成21年3月 財団法人 屋久島環境文化財団

・「鹿児島県/オカヤドカリ」

https://www.pref.kagoshima.jp/bc05/hakubutsukan/tennen/kuni_tennen/21okayadokari.html

